



奈良県感染症情報

令和2年第36週(8月31日～9月6日)

奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)

<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

今週の概要

- 小児科外来情報

◆ 定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患) ◆

順位	疾患名	奈良県			北部	中部	南部
		定点当たり	(前週)	増減			
1	感染性胃腸炎	1.76	(1.24)	→	→	↗	↓
2	ヘルパンギーナ	0.53	(0.56)	↑	→	↑	→
3	突発性発しん	0.47	(0.41)	↗	→	↗	↗↗
4	A群溶連菌咽頭炎	0.35	(0.15)	↗	↑	→	↓
5	水痘	0.24	(0.12)	↗↗	↑	↗↗	↓

発生状況: **大流行** **流行** **やや流行** **少し流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています。)

増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 **↗↗**急増、**↑**増加、**↗**やや増加、**→**横ばい、**↘**やや減少、**↓**減少

◆ 県内概況 ◆

先週に引き続き ヘルパンギーナの報告数が多くなっています。6ヶ月～3歳の18人が報告され、このうち2歳が8人と最も多く報告されていました。ヘルパンギーナの症状は、発熱のほか、口腔粘膜の水疱性発疹による痛みのため、拒食や哺乳障害等をおこすことから、脱水症に注意が必要です。

秋は台風による自然災害が増える季節となります。避難所では、平時より密集になりやすく急性呼吸器感染症や感染性胃腸炎が流行しやすいため咳エチケットや手指の消毒を徹底しましょう。また、被災地の復旧のための野外の活動の際は、ダニや蚊などに刺されたり、けがをしないように肌を露出しない服装や厚底靴を着用し、また河川の氾濫や古い家屋に起因する粉じんにはレジオネラ属菌等の病原微生物を含むことがあるため、状況に応じ防塵マスク等を使用することで感染症を防ぎましょう。

♣ 小児科外来情報 ♣

北部地区(田中小児科医院)

水痘、ヘルパンギーナが散見される。
咳を主訴とする来院が増えているかも。来院数の増加はない。

中部地区(岡本内科こどもクリニック)

外来数は少ない。
咽頭発赤の夏風邪が多い。手足口病、ヘルパンギーナ等は殆どないが水疱を認めない非典型的な手足口病様の例が散見される。
感染性腸炎もあり、短期の下痢例がみられる。
他の登録疾患は見られなかった。

南部地区(南奈良総合医療センター小児科)

ヘルパンギーナの流行あり。いずれも対症療法で軽快し、髄膜炎合併例はなかった。
また胃腸炎も増加傾向、ロタウイルス陽性学童あり。ウイルス性咽頭炎は減少傾向。



❖注目疾患の動向❖ 全て定点当たり報告数

■ R2 ▲ R1 □ H30 〰 過去10年平均

